

令和6年8月1日

# 令和6年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園  
大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校、学校関係者評価委員会は、令和5年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

## 1. 実施日

令和6年8月1日

## 2. 学校関係者評価委員

江口 美貴 氏 (株式会社 ヴルーマン 取締役会長)  
高野 芳樹 氏 (株式会社 T A T 代表取締役社長)  
松原 輝和 氏 (株式会社 J T B 神戸支店 営業第二課長)  
向吉 正実 氏 (東武トップツアーズ株式会社 関西支社 大阪法人事業部 営業担当部長)  
森山 昭弘 氏 (株式会社 T E I 支店長)  
川喜多美由紀 氏 (株式会社 阪急阪神ホテルズ 人材開発部人材育成)

## (事務局)

宮路 信美 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校 校長)  
藤川 宏明 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校  
観光・IT・スポーツ教務部部長)  
山本 省二 (大原学園 関西圏就職本部)  
藤井 智香 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校  
ブライダルビューティー課 課長)  
梶原 賢二 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校  
外語観光課 課長代理)

## 令和5年度自己点検・評価の概要

大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校の2023年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営は、意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定、各種研修制度の確立を通じて有為な人材育成を行うことができていると考える。

さらに、学校運営として、予算計画・執行は規定に従って適切に行われており、財務状況も安定している。

昨年度は、学校関係者評価委員の皆様より、「作品および技術等の発表における成果を把握しているか」「留学生の相談体制について」「学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制」の3点に関してご助言を頂戴し、重点的に改善に努めてきた。

将来像を意識した幅広い業界・分野への就職活動については、教職員による担当学生のニーズの把握力を高めており、また多くの有効求人が存在する時期と学生の就職意識はトレードオフの関係性もあり、複数担当制により学生の成長力を高められる体制を整え、対応力の強化を図っている。留学生に対する日本語以外の指導に関しては、就職の授業を通して、各種マナーの指導や日本独特の各種ルールの説明を実施した。また、一部掲示物は複数か国語を活用している。なお、日本語学科は2023年度には入学者の国籍比率を再検討したことにより中途退学者が減少しつつある。今後とも同様の取り組みを進めたい。

## 令和6年度 重点目標1

作品及び技術等の発表における成果を把握しているか

### <現状・達成指標>

達成度合：80%

制作された作品に対しては専門家により評価を頂いている。

また、技術については、チェックシートを用いた効果測定を実施している。技術チェックシートを作成するにあたり一部企業の方のアドバイスをいただいた。

卒業研究においては、成績評価を企業の担当者や現場のプロの方に依頼し、一定の評価を得ている。新たにウェディングのフォトコンテストを開催し、委員の方にも審査員としてご協力いただいた。

### <具体的方策>

評価が主観にならないように外部の方にも意見を聞きつつ評価基準となるチェックシートのさらなる充実をはかりたい。

作品制作、技術評価を伴わない学科等については該当しない。

### <学校関係者の評価・提言>

(江口委員) コンテストの実施もそうだが、感性の違いについての事前チェックや指導を行うしておくことも大切だと感じます。国民性の違いも含めて当たり前の認識のずれを確認し、認識させることが大切です。

(高野委員) コンテスト実施は客観的に評価できます。今後できる限り、「社会に出て使える・役に立つ」作品を意識され、社会で実際に起こりえるテーマでコンテストが

できると良いと思います。ペルソナ（理想となるお客様像）を設定し、その女性の結婚式のネイルを検討することなども良いのではないかと思います。

（川喜多委員）コンテストの実施は自信を客観的に評価することができ、今後の成長や自信につながる良い取り組み。評価を外部の方にも意見を聞いておられるのもレベル向上につながると思いました。

（森山委員）プロによる作品の評価を得られることは学生にとって何が足りていないかの判断となり、将来目標を立てるにあたり有意義と思います。

（松原委員）新たなコンテストの実施など常に新分野への調整を高く評価しています。

（向吉委員）外部コンテストなど、腕試しの機会を積極的に活用していただきたい。

## 令和6年度 重点目標2

留学生に対する相談体制の整備

### <現状・達成指標>

達成度合:80%

日本人学生と同様に個別相談を実施している。入管手続きについても教員がサポートしており、アルバイト紹介も行っている。

複数言語での対応ができる体制を構築し、相談にのりやすい環境を作っており、掲示文は複数言語を活用している。

一部の学科では2023年度より外国人留学生キャリアプログラムの認定を受けた。またそれ以外の学科でも日本社会の理解促進に資する授業科目を設定している。

### <具体的方策>

留学生のニーズに合わせた複数のコースで入学生を受け入れている。各コースに応じたビジネスマナーや日本社会の理解促進に関するカリキュラムを強化すべく改定を行っていく。

日本社会の理解促進に資する科目の一つとして、一部のクラスではマナー・プロトコール協会の留学生向けのコミュニケーションマナー検定の導入を検証している。

### <学校関係者の評価・提言>

（江口委員）現在も学生がモチベーション高く学習をしていて良い環境だと感じます。日本人学生とのコミュニケーションチャンスを増やすことで人間性の成長を促すような体制が良いのではないかと考える。

（高野委員）留学生にとっては、身寄りのない異国にて学ぶというのは、すごく精神的にキツいと思われますので、学校が第二の我が家のような、心理的安全性の高い窓口があると良いと思います。

（川喜多委員）すでに十分な対応を行っておられると思います。当社では日本人・外国人スタッフが一緒にマナーやルールについて議論し、互いの価値観や文化について理解を深める場面を作っていく予定です。

（森山委員）生徒が安心する母国語のサポートがある事は素晴らしいと思います。入管や査証の手続きがスムーズに行われれば就職率が上がると思います。

（松原委員）文化、風習、宗教など異なる生活を行う中で拠り所となるコミュニティ形成に大きく寄与していると考え高く評価します。

## 令和5年度 重点目標3

学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか

## <現状・達成指標>

達成度合：80%

実習や研修等の参加については事前に外部機関と実習内容や研修内容の打合せを行い、期間中は職員が訪問・引率し、事故やトラブルにならないように十分注意している。

また、ホテルやウェディング施設の学外実習やインターンシップではリゾート型や都市型、ゲストハウス型など異なる形式についての理解を深められるような体制ができています。

語学研修については、学内の説明会後に学内でのオンライン語学学習を経て現地学習に入る体制ができています。

## <具体的方策>

実習等については実習先が異なることで、同一環境下で実習が出来ないことから、実習内容に多少ばらつきがある。

## <学校関係者の評価・提言>

(江口委員) とても良い取り組みでいらっしゃると思います。

(高野委員) 現在も外部イベントへの参加等もされていて良いと思います。ネイル業界としては、アジアネイルフェスティバルが2025年度は関西実施見送りとなり、6月16日(月)17日(火)の2日間アジアビューティ EXPO というイベントが実施予定ですので参考にしてください。

(川喜多委員) 当社でも海外留学、有給インターンシップ派遣制度があります(ニュージーランド)。学生のうちから実体験を通じて視野を広げるこのような体制の整備はとても有益と感じました。

(森山委員) 実地体験は貴重でたくさん実施すべきと思いますが外部機関の調整に難しさを感じられます。大変ご苦勞なされていていらっしゃると思いますが引き続き継続頂きたいと思います。

(松原委員) 百聞は一見に如かずのとおり、実習を行っているということが大きな強みであると考えます。大いに実習や現地研修に力を入れて頂きたいと考えます。

(向吉委員) 実習内容や目的と実習先のミスマッチをなくす取り組みや仕組み作りができると良い。

## 全体評価と総括

(学校関係者評価委員)

大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校の教育成果及び学生指導並びに学校運営の取り組みについて、企業の視点から検証を行い自己評価結果は妥当であると評価いただいた。

今年度重点的に取り組む項目として「留学生に対する相談体制の整備」「作品及び技術等の発表における成果を把握しているか」「学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか」を挙げている。いずれに対しても例年通りの対応ではなく時代に合わせた対応に対する取り組みには評価をいただくと同時に、さらなるご提言を頂いた。

(事務局)

コロナ禍における影響で、留学生を取り巻く環境、就職活動のスタイル、検定試験の時期や手法等様々な影響が起きている。中でも、学校運営、指導方法に変化を取り入れ現状に満足するこ

となく、即戦力となる学生を育成していきたい。また、そのためにも教職員自身も専門性のみならず時代に合わせてスキルアップして行く所存である。

今回の委員会でも、学校関係者評価委員から様々なアドバイスを頂戴した。教職員一同いただいたアドバイスをしっかりと活用し、大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校運営の更なるブラッシュアップを図っていきたいと考えている。

文責 藤井 智香  
梶原 賢二